

コンビネーション353号

時間切れで負けないように

函館チェスサークル・インターネット通信

2017年5月19日発行

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

全日本選手権特集 (1)

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

パソコンが壊れてしまい、このニュースをすぐにお届けできませんでした。

4月30日～5月5日、東京において毎年恒例の全日本チェス選手権全国大会が開催されました。40手90分+30分、1手毎30秒累加のクラシカル・チェスを11ラウンド行うことで技を競う、文字通りチェス日本一を決める大会です。南條さん、馬場さんら、常連の強豪が不参加とはいえ国内では最もハイレベルな大会でしょう。

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

驚異的な成績で優勝 野口さん

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

優勝は小島慎也さんか、若手将棋プロの青島さん、・・・と誰もが予想していたでしょうが、ふたを開けてみれば突っ走ったのはベテラン、野口さんでした。11戦10勝。ドロワーがあるチェスでは驚異的な成績で優勝しました。野口さん、おめでとうございます！

小島さんは野口さんとの直接対戦は勝ったものの青島さんに痛恨のドロワーを許し、わずかに足りませんでした。優勝を逃したのは野口さんの成績が奇跡的だったからなのですが、本人は非常に悔しいことでしょう。

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

チェス教室顧問 山田弘平が第3位入賞！

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

二人が圧倒的な強さを見せる中、優勝争いからんだのが山田でした。これまで全日本は不調なときが多かったですが、この大会ではあわや優勝かと思わせる活躍でした。強豪相手にドロワーさえ許されない中を次から次へと勝ちまくり、本人として最高の3位入賞を勝ち取りました。

さすがに後半持ち直した青嶋さんはタイブレークの差で4位入賞です。

(3位に入れたのは)「勝ちにいくチェスを目指して努力してきたからだと思います。百傑戦のときより自信はありました。負けたゲームも内容は悪くなかったです。」とは山田弘平の感想です。入賞者には来年行われるチェス・オリンピアードの日本代表の権利が与えられました。

<入賞者>

優勝： 野口恒治 10.0

準優勝： 小島慎也 9.5

第3位： 山田弘平 8.0

第4位： 青嶋未来 8.0

今回の大会はTDが変わり、画期的な運営になったときいています。この流れが日本チェス界をさらによい方向に変えてくれることを願っています。

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

函館ブリッツ大会

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

名称	函館ブリッツ大会
日時	5月19日(金)19:00 集合 19:30 開始
場所	函館市花園団地集会所
形式	スイス式6R、5分切れ負け
入賞	3クラス3位までに賞品予定
主催	函館チェスサークル、TD 山田明弘

ブリッツ大会は早く指さないと時間きれで負けます。考えている時間がなく、決断の速さがとても大事です。相手との持ち時間の差が1分以上ひらくとピース・ダウン (駒3点差) と同等という人もいます。好手発見にこだわるより負けない手をどんどんと指し続けるようにしましょう。

時間切れで負けないようにしてください。気持ちでは負けないようにしてください。たとえボロ負けでも正面からぶつかったプレーヤーにだけ未来があると、先生は思っています。以下、テンカウントという歌の歌詞より。

ほんとは覚えているだろ？

ド派手に真っ向から立ち向かって、しかし

ド派手に真っ向からブツ倒されて、歪んで、霞んで

欠けた視界の先にあるそれこそが、正真正銘、

挑み続ける明日だってことを (by 竹原ピストル)

